

県連ニュース

2023年12月 NO-557号



『藤原岳 多志田山付近の県境稜線より』

滋賀県勤労者山岳連盟

2023年12月号 目次

リレーエッセイ 比良雪稜会 長尾幸一

<案内>

(県連主催) C S S企画「イグルー講習会」案内

<報告>

登山祭典 湖南岳友会
10/22 ちごゆり山歩会
山の会 オフトレイル
比良雪稜会
滋賀山友会
シャクナゲ溯行クラブ

初級読図コース

9/30 3回目 「長等山」コース

初級登山教室

10/14-15 鈴鹿テント泊 実技
10/28-29 御在所・クライミング実技

交流山行

11/3 雪稜会 「比良山系の飲み水水質調査」
11/3 雪稜会 「比良・荒川峠方面(採水3か所、放射線測定8か所)」
11/15 県連 「赤坂山放射線量測定山行」

ハイキングレスキュー講習会(11/12) 報告

第1回代表者会議・第9回理事会 議事録 11月8日

ぐうたら会長のつぶやき

12月～2月 行事予定表

表紙の写真『藤原岳 多志田山付近の県境稜線より』

撮影日：2023.11.4 撮影者：小原邦男（比良雪稜会）

【リレーエッセイ】、

A 比良<六甲≒ダイトレ

B 比良≒六甲<ダイトレ

比良雪稜会 長尾幸一

上記の意味は为什么呢。

歩かれたことがある方は大体想像がつくかもしれませんが。

比良は比良全山縦走、六甲は六甲全山縦走、ダイトレはダイヤモンドトレールフル縦走のことで、Aは歩く距離、Bは歩く時間（コースタイム）です。

距離は比良は約30km、六甲は約45km、ダイトレは約45km（縦走大会では約30km）

コースタイムは比良と六甲は約15時間、ダイトレフルは約22時間となっています。

関西では結構有名な三つの長距離縦走のコースとして昔からよく歩かれているそうです。

鈴鹿山脈や高島トレイル、大峯奥駈などは長距離過ぎるせいか含まれていません。

私も興味がありましたので一昔前のことですが歩いてみました。

地元の比良は近いとはいえ日帰りではなかなかハードでしたが何とか歩けました。

3コース中やはり一番山を感じ展望も良く爽快でした。琵琶湖の存在が大きいに思いました。

六甲は神戸市や兵庫県宍粟の主催で縦走大会をやっていました。公称56kmの全山はとても無理だと思っていましたが、住宅街やドライブウェイを歩く平坦地が多くて距離がある割には時間がかからず後半はほぼ下りなので夜遅くになりましたが完歩できました。縦走路から瀬戸内海を見た景色が比良から琵琶湖を眺めた景色に重なって見えて良かったので何度か歩きました。

ダイトレは大阪府岳連や宍粟で春と秋に縦走大会をやっていたので両方に参加してみました。

どちらも1日での大会なので距離や時間を考慮してコースを設定されています。

六甲はほぼ全山ですがダイトレは二上山あたりから南海紀見峠駅または天見駅までとフル縦走よりずっと短縮されているとはいえ、階段が多くて展望も山頂以外はあまり良くありませんのも一つでした。これも制限時間内で完歩は出来ましたが、フル縦走はまだ残りがおよそ3分の1もあり全く無理なので2回に分けて歩きました。滋賀から往復する時間もかかりますし、相当な健脚者でないと日帰りでのダイトレフル縦走はむつかしそうです。

このような縦走に興味がおありの方は一度挑戦してみて下さっても面白いかもしれません。

コースタイムくらいで十分歩ける方は、ダイトレフル以外は日帰りで完歩できると思います。

またコースタイムの半分くらいで歩ける超健脚の方(フルマラソンサブ3クラスかも)ならダイトレフル縦走も日帰りで完歩できるのではないのでしょうか。ヤマレコやヤマップなどをみていると、やはりコースタイムの2分の1から3分の2前後で歩ける速い方の記録が多いですが参考になると思います。

滋賀労山主催（CSS 企画） イグルー講習会のご案内



イグルーと聞いて、雪洞と同じく厳冬期のビバークを思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、イグルーは雪洞と比べて、

- (1) 雪が少なくても作れる
- (2) 斜面でなくとも作れる
- (3) 排雪作業が非常に少なく効率的
- (4) 生き埋めになる心配がほとんどない
- (5) 酸欠になる心配も少ない

など、非常時だけでなく、テントを使わない雪山縦走の実用的な技術として様々な点で優れています。

そして何よりも、作る作業自体が非常に楽しめます。

コツを掴むまでは少し慣れが必要ですが、一度覚えてしまうと雪山山行の幅が大きく広がるでしょう。

そのようなコツを、イグルー山行の第一人者、米山悟氏に伝授していただける、またとないチャンスです。

京都労山のメンバーにも呼びかけて、交流の場も兼ねた楽しく実戦的な講習としたいと思います。

【日時】 2024年2月10日（土）～12日（月祝）

【場所】 乗鞍岳（予定）

【講師】 米山 悟（イグルスキー米山）氏

【定員】 約30名

【参加資格】 労山会員で雪山の経験と歩行技術をお持ちの方

【参加費】 2,000円（+実費）

【持ち物】 雪山宿泊山行装備、スノーショベル、スノーソー（刃渡り30cm以上、伐採・剪定用などでも可）、アバランチビーコン、プローブ（ゾンデ棒）、スノーシューまたはワカン、アイゼン（10本爪以上推奨）、ピッケル

【お問い合わせ】 ot@offtrail.sakura.ne.jp 信森 徹（山の会オフトレイル）

【お申し込み】 shigarosan@gmail.com 滋賀労山宛

タイトル:「イグルー講習会」として、氏名・現住所・電話番号・メールアドレス・生年月日・性別・血液型・加入保険・ココヘリナンバー（お持ちの方）・緊急連絡先・所属会を明記の上お申し込みください。

【締切】 2024年1月31日

～ 講師 米山悟氏より ～

松本市出身 1964年生まれ

テントを持たず積雪を使ってシェルターを作る「イグルー」の冬山登山での実用技術を北大山岳部時代より40年近く継続研究し各地の山岳会、大学、高校山岳部などに講習を行ない、数百人に教えました。イグルーは現場の雪と自分の技で山を渡り歩く自由な登山思想です。雪質を見る目と技を身につけ40分以内で作れば心強い救助・生存の実用技術です。雪山登山の基本技術に推し進めたいです。

お申し込みに当たっての注意事項

※1 米山氏のイグルー指導は10日・11日のみ、12日は簡単なビーコン操作・弱層テストなどの練習を行います。

※2 10日・11日または11日・12日のいずれか2日間のみでもご参加いただけます（イグルーでの宿泊体験を含みますので、必ず連続2日以上でお申し込みください）。

※3 安全な場所で実施しますが、厳冬期2,000mの雪山です。12日は参加されない場合も、上記装備は必携です。購入が難しい場合は、レンタル利用などをご検討ください。

※4 イグルー内は氷点を大きく下回ることはないので、厳冬期シュラフは不要です。

※5 当講習は、雪山に慣れてきてテント泊を視野に入れている程度の方を主な対象としています。参加に当たっては、アイゼン・ワカン等が正しく装着できること、荷物はテント泊よりは軽くなりますが夏山テント泊縦走程度の重量を背負えることが必要です。

※6 雪山での生活技術は講習も兼ねてお伝えしますので、必ずしも雪山泊経験が無くても参加可です。

※7 作成するイグルーの大きさは自由ですが（何個か作ります）、4人用程度より大きな物を作るのは困難です。グループで参加される場合は、食事の分担・宿泊の部屋割り等を予めご相談の上、ご参加ください。

登山祭典 八幡山

《日時》2023年10月22日(日)晴
集合場所:百々神社

《参加者》会員:15名 一般:15名 合計:30名

《コースタイム》

10:38 百々神社前→10:50 百々神社登山口→11:30 水郷展望台→11:42 西の湖展望台・昼食
12:17→12:30 望西峰展望台→12:45 鞍部→12:55 北虎口上展望台 13:00→13:04 長命寺港
展望台→13:12 のろし展望台→13:15 北之庄神社分岐→13:45 北の丸 13:55→14:00 出丸・集
合写真 14:10→14:13 西の丸→14:20 ロープウェイ山頂駅→14:58 日牟禮八幡宮登山口・解散

秋晴れの中、会員15名、会員外15名、計30名でのにぎやかな山行となりました。

計画では近江八幡駅集合でしたが、参加人数が多く車は2台のため、路線バス長命寺行に乗車し、ユースホテル前で下車して百々神社に集合しました。

近江八幡駅からバス乗車、ロープウェイ乗り場からバス乗車、車で百々神社に集合の3通りの集合となり、全員集合が遅れたためスタート時間が遅くなりました。

一般参加はOBと健脚な方々ばかりで、おしゃべりしながら楽しく登られていました。下山はあっという間で、日牟禮八幡宮登山口に到着後、順次解散となりました。低山だから歩行時間も短いと思っていたのですが、アップダウンが多く登りごたえのある山でした。



笑顔で集合写真



お昼の楽しいひとコマ



太 神 山

実施日 2023年10月22日(日) 快晴

コース アルプス登山口—迎え不動—太神山参道入口—泣き不動—二尊門—太神山(不動寺)
—泣き不動—迎え不動—アルプス登山口

参加者 小泉 高山(雅) 高山(智) 嶋本 長谷川 濱本 竹中 兵庫 田村 村田 大野
柴田(久) 柴田(英) 目片 前田(山友会) 会員15名 一般11名 合計26名

カラッとした秋晴れの下アルプス登山口に集合した参加者は柴田会長の挨拶の後コース案内や注意事項の説明を受け、準備体操で身体の筋肉をほぐして出発する。(9:35)歩き始めるとすぐ目の前に巨大な建造物が天神川をまたいで建っており、その下を潜って行く。バスの中から見えていた新名神高速道路の工事が山肌を削り取って進められており便利さと自然との調和を考えさせられる。天神川に沿った緩やかな舗装道路を進んで行くと迎え不動に着く。(10:12)今日の山行の安全をお祈りする。鎧ダムの分岐を過ぎると車止めがあり手前に何台かの車が止まっている。さらに少し行くと太神山不動寺の道標があり林道と別れて山道となる。樹林におおわれた中を天神川に架かる橋を渡って行くと花崗岩の急登がしばらく続く。一步一步慎重にあえぎながら登る。急登が一段落して振り返ると山と山の間に開けた田上や南郷の街並みが広がり、涼風が心地よく感じられる。よく手入れされた道を休憩をとりながら登って行くが樹林に覆われ展望は良くない。ようやく泣き不動に着く。(10:35)不動明王が私たち一行を見下ろしておられ自然に手を合わせる。植物観察のグループと挨拶を交わし、両側に石像が立っている二尊門を通り過ぎるといよいよ不動寺に近づいてきた雰囲気にも包まれる。歴代の高名な僧侶の墓を通り過ぎると山門が現れ不動寺に到着する。(12:10)休憩所に荷物を置き急な石段を登り本堂にお参りした後、すぐ近くの太神山山頂で三角点を確認し奥宮にお参りする。(12:25)休憩所へ戻り大休止、食事を摂りお茶を飲みながら情報交換を行い和やかに過ごす。(12:35~13:15)疲れが取れたところで下山にかかる。膝に負担がかからないよう丁寧に降りる。林道へ出ると気も緩み時々通り過ぎる車に注意しながら無事アルプス登山口に着く。(15:28)



(写真 大野 目片記)



天吉寺山（県連登山祭典）

山の会オフトレイル

当会は湖北のマイナーピーク、天吉寺山（てんきちじやま）で実施しました。

天吉寺山は南の七尾山（ななおやま）から金糞岳へとつながる尾根上にある山で、「伊吹の弥高山（やたかやま）」、「古橋の己高山（こだかみやま）」、「浅井の天吉寺山」の湖北三大霊山の一つに数えられ、元は標高 660m 付近に寺院が建立されたそうですが、今は麓に子院を残すのみです。

寺に通じる道の案内板には「大吉寺」とあり、なぜ「大」吉寺なのに「天」吉寺山なのだろうと疑問が湧きますが、「大吉寺勸進状」によれば、洪水で天吉寺の「天」の字の「一」が洗い落とされ、「大」になったということです。

さて今回は、会員外の一般の方が 4 名も参加され、総勢 9 名のにぎやかな山行となりました。

ルートは、現・大吉寺を起点に、550 出合に向かって尾根を北上し、703 から天吉寺山南尾根に向かい、天吉寺山を往復した後、大吉寺遺構を経て現・大吉寺に戻る、時計回りの周回ルートです。

大吉寺裏から尾根に上がると、この付近の山に共通する素朴な雑木林のルートが続きます。送電線をくぐって尾根が広く緩やかになってくるところからは琵琶湖方面が見渡せ、小谷山の左肩に竹生島も見えました。

天吉寺山山頂はそれほど展望のあるピークではありませんが、東の方に少し出ると、奥伊吹スキー場と冬に泊まったブンゲンの山頂がよく見えます。

山頂には写真でも見かけたゴルフボール製のプレート（？）がありましたが、みんな何か付けたくなるのか、それ以外にも 10 種類近く、目立つものから地味なものまで、あちこちにプレートが掛かっていました。

休憩後は、地形図 659 付近の大吉寺遺構に向かって南下します。

途中に池と言ってもいいような大きなヌタ場がありました。

大吉寺跡はかなり立派な遺構で、今は苔むした礎石が転がっているに過ぎませんが、平治の乱の後源頼朝が匿われたとかで、大きな杉の木のそばに供養塔も建っていました。

仁王門跡からは等高線を見てもわかるようにかなり急な下りが長く続きますが、みなさんに足の運び方なども簡単にレクチャーしながら、登りにあった送電線と再び交差する谷筋の出合まで、無事下りてきました。



琵琶湖方面（正面に小谷山と奥に竹生島）



緩やかな尾根



山頂でのお昼休憩



ゴルフボールの山頂プレート（？）



奥伊吹スキー場とブンゲン（中央奥）



頼朝供養塔

天吉寺山はどちらかという地元でもマイナーな山で、特別目立つ特徴があるわけでもありませんが、なかなか味わいのある山でした。

遺構巡りもでき、参加者のみなさんにも楽しんでいただけたようなので、実施できてよかったと思います。

2023年10月22日（日） 晴れ時々曇り

参加者：TT、ST、TN、RY、AY 他4名

大吉寺 9:35

10:22 550 尾根出合

11:08 703 尾根分岐

11:55 南尾根出合

12:08 天吉寺山 12:48

14:22 659 大吉時跡

15:30 大吉寺



GPSトラック（地理院地図を元に作成）

登山祭典兼秋の公開野点山行

余呉トレイル 音波山

比良雪稜会

日 程：2023年10月22日（日） 晴れ

参加者：当会会員23名 他会会員1名 一般16名 合計40名

行 程：堅田駅7:35＝（貸切バス）＝小野駅＝和邇駅＝365号栃ノ木峠手前の登山口（準備体操）10:25～765m～巡視路分岐～（ブナの巨樹）12:50～音波山頂～林道（昼食・野点）14:00～（往路を戻す）～栃ノ木峠神社横登山口16:00＝和邇・小野・堅田各駅（解散）

天気心配なく、例年よりも日中は暑い日が続いて衣服を迷う山行となりました。時間通りにバスのピックアップも順調に行われ、途中道の駅追坂峠とあぢかまの里にてトイレ休憩及び受付を済ませ登山口へ。A氏の号令の元、ストレッチ体操を行い3班に分かれ登山を開始。

いきなりの急登の上、足元も少し悪いため登山口では少し渋滞ぎみになりましたが、県境尾根に乗ると傾斜がゆるやかになり雑談も聞こえ始め、紅葉の中の山歩きになりました。

突然、視界が開け林道に出てしまいました。風力発電計画の工事用林道が尾根に沿って山頂まで伸びており、登山道は所々少しだけ残っているだけで、ほとんど工事用林道を歩くことになりました。ブナ林も寸断されており、たくさんのぶなが伐採されたと容易に想像できました。途中には残置された太陽光発電の骨組が残っており、ブナ林の中を歩く折角の稜線歩きがとても残念な様子になっていました。林道を無視するかのように、足元の悪い山道をえらびながら山頂へ向かいます。

音波山に近付くと林道を離れ山道に入る。山頂手前があるブナの巨樹を見に行く。大きい！ 3人がかりで手を繋ぎ幹を抱きかかえる。

音波山頂は狭く、展望もイマイチなため、班毎に記念写真を撮り、もうしばらく進む。

林道に下り立ち、比較的平坦で展望のよい所で遅くなった昼食を摂る。そして緋毛氈を広げ、野点会場設営。の開催！ お菓子“落雁”を配る。女性陣が慣れた手つきでお抹茶を点てる。今年はお湯を再加熱したこと、特に美味しい！の声が多くあがり好評。

野点の余韻に包まれながら、下山にかかる。

765.0m付近で北へ延びる尾根にちょっと寄り道、リーダーお薦めの気持ちの良いブナ林の中でしばし休憩と全員集合写真。

県境尾根を外れ、650m辺りの分岐で往路と違う右への道をとる。急登の下りは危険なため、緩やかなルートに変更。朝の登山口より大分栃ノ木峠に近い小さな神社横の登山口へ下山するとバスがお出迎え。

今回の山行は秋の山を楽しむだけではなく、開発による山の変貌を目の当たりにしたいいつもとは違う山行となりました。

〈記：GM〉



第 61 回登山祭典 「比良・ヤケオ山」

滋賀山友会

実施日 2023年10月22日 日曜日 晴れ

参加者 会員10名 一般1名 計 11名

集合 JR北小松駅 午前8時

コース JR瀬田駅 6:47＝JR山科駅 7:05＝7:45JR北小松駅 8:00…登山口 8:40…涼峠 9:30…ヤケ山 10:00…10:50 ヤケオ山 11:20…中井新道…P761.11:50…峠 12:40 登山口 13:40…JR 近江舞子駅 14:40・解散

記録 登山日和にしては、少しひんやりと寒いスタートでしたが、駅から歩いて登山口に着く頃には、暑いぐらいでした。以前、県連の比良縦走では、下山ルート of 比良山岳センター前の舗装道から涼峠をめざして登ります。ヤケ山までは登りが続きます。P705 大石から、またも急登になり、ヤケオ山直下のさらなる急登を登りきり山頂到着(昼食)。ここから、P761 を目指してのバリエーションルートです。秋、十五夜の月見の「あのススキ」の藪漕ぎがP761まで続きました。これには、びっくり、季節によって、歩く道は変わるので。かやぶきの家が少なくなつて、ススキを刈る人もいないのでしょうか。誰も歩いてないということです。P761から峠をめざして、古道歩きを楽しみました。近江舞子駅まで、おしゃべりを楽しんだ一日でした。

みなさま なかなかの藪漕ぎを経験され、お疲れさまでした。山科でのクールダウンも楽しかったことでしょう。

感想

ヤケオ山は急な登りと急な下り草の生い茂る道を掻き分ける事もありまだまだ未熟な私には少しハードな山行でしたが山頂からの眺望は琵琶湖や連なる山々、とても素敵な眺めでした。

そして豊田さんのジョークも絶好調で皆さんと楽しく山行させて頂く事ができ、ありがとうございました。(谷内)



登山祭典 「途中越え～天ヶ森」

シヤクナゲ溯行クラブ 太田 理

実施日 10月22日 日曜日

参加者 太田・我妻

記録

まずは熊除け鈴の点検を行う。 午前8時無20分

標高370m、途中越えは国道367で、側道のような壁を越えて山に取りつかなければならぬ。踏み跡のはっきりしないコースを何とかやり過ごし、急登で高度を稼ぐ、しばらくして、緩やかな登りが続き、鹿除けの網が見られるようになる。京都と滋賀の県境でも踏み跡は薄い。ピーク812は、とんがったピークではないため、一度行き過ぎた。引き返して西にほうこうを変え、溝状の山道になるとコースが、はっきりしてくる。

ミタニ峠、11時58分。峠を過ぎると、倒木やシキミなどで、進み難い道になる。

天ヶ森、12時48分。長い休憩を取る。三角点、812.5m。

下りに入ると、何度も通った道で、休む事はない。紅葉は始まったばかりの様子だった。小出石、午後2時20分。

山本綾子さんは、山行には参加しなかったが、途中越えから天ヶ森の登山口へ、車を回してくれた。 帰路、堅田の王将で、ご苦労さん会を開いた。

第3回初級読図コース実施報告

[山行日] 2023年9月30日(土)

[参加者] 講師;K原、スタッフ;2名、
受講者;一般6名 会員 2名

[コースタイム] 明日都浜大津1Fで座学9:10~11:10、11:20実技山行歩き始め、
12:00長等公園(昼食、装備・ルート説明、準備ストレッチ) 13:00➡13:30小関越➡
14:25長等山(354)➡14:50三角点(370.3)➡15:10長等テラス(320)➡大津京駅前(解散)

[感想] 3回目になった初級読図コースは講師を含めて11名と大勢の参加になりました。テーブル杯になった参加者に地図の見方、記号の意味、等高線と地形の傾斜、磁北線の書き方、コンパスの説明と使い方などを資料、地図をもとに解説しました。それぞれ基本的なことに講師である私の理解と経験による私なりの解説であることを話しました。座学を終えてお昼前に午後の山行へと長等公園へ向かって歩き始めました。公園で昼食をとり、私の山行装備を見せて山行中のトラブルに対応することを説明しました。その後ルート説明と歩き方の注意を話し、準備体操のストレッチをもらい、山に向けて歩き始めました。小関越から山道へ入り、三井寺からの山越えの道、長等山から大津市街の展望、コルや急坂などを地図上のポイントで説明しました。分岐では地図とコンパスで方向確認をし、地図記号や三角点を現地で見て、現在地を理解してもらいました。低いながらも展望が開ける長等テラスで休憩をしながら千石岩、比叡山や遠くの山々の山座同定もしてみました。そこから降りはじめ、山上不動尊、早尾神社前を経て皇子が丘公園入口、大津京駅付近で解散しました。

私が読図や山行で説明したことは私なりに理解していることで、間違っていることもあるかもしれませんが。誰も全て正しい理解をしているとも言えないでしょう。他の人の解説や受講者の理解もそれぞれ違ってくると思います。山行などでの地図読み経験は人によって千差万別なので、講師や教える人の説明を参考にし、資料や実地山行の経験を通じて自分なりの読図スキルを身に付けてもらいたいと思います。山の会や連盟、団体などで行われる読図などの講習会をできるだけ受けてもらえればと思います。(K原)

2023年度 初級登山教室

2023年10月14日(土)~15日(日) 初級登山教室テント泊 鈴鹿イブネ・クラシ御在所岳

講師 T内講師 N森講師

受講生 S藤 Y元R(記録) Y元A

通過タイム

14日・武平峠(877m)駐車場集合 9:00-駐車場発 9:25-武平峠 9:30-沢谷峠 10:50-七人山のコ 13:10-東雨岳(1225m)14:00-雨乞岳(1238m)14:18-杉峠(1042m)15:08-佐目峠 15:25-幕営(テント泊)

※雨乞岳東まで笹藪あり、沢谷峠まではアップダウンが多く、渡渉箇所も数回あり。道も荒れていた。

※雨乞岳までは笹道で傾斜が強く視界が悪く、雨乞岳から杉峠へ向かうルートでは進行方向を間違え、50mほど進む(北西の尾根に向かった)が、講師のアドバイスで正ルートに戻る。

※雨天のためイブネでの幕営中止し佐目峠で幕営。

15日・佐目峠 7:30-杉峠 7:40-国見峠 11:40-国見岳(1170m)12:00-休憩 40分-国見峠 12:50-※御在所岳(1212m)(間違っ別ルートで山上公園へ 13:20着)-御在所岳(1212m)13:40-長者池-武平峠 14:40-武平峠駐車場着 15:00

※御在所岳~武平峠までの下りの岩場は急斜面で風も強く緊張を強いられる厳しい下りだった。

一口感想

T内講師

テント泊は共同装備の分担と併せて自身の体力に見合った装備となります。計画書以外の装備を持参する場合は行程(所要時間・歩行距離・高低差等)に見合った担げる重さの判断が重要です。パーティがスムーズに行動できるよう各自が装備の軽量化を図ってください。また、リーダーの役割は先頭を歩くことだけではありません。決められたルートを歩いてパーティを導くことが求められます。こう言う私もルートを間違えることがよくありますが、今回は少なくとも3回はルート間違いがありました。

1. 『初日の雨乞岳から杉峠への下り』北へ下るところを北西の尾根に向かった。

※雨乞岳山頂から杉峠へはほぼ直角に方向を変えるので北西に続く尾根を歩くとすぐにおかしいと気づくはずです。

2. 『コクイ谷出合手前の渡渉』出合の手前でルートが不明瞭になり、対岸へ渡ろうとした。

※対岸が歩きやすそうでもルートが判りづらいからですが地図では御池谷の右岸を離れることが無いので渡渉はありえないことが判ります。

3. 『国見峠から御在所岳山頂』国見峠からケーブル山頂駅のルートを選択。本人は御在所岳への直行ルートを選んだと思っていた。

※まず、方向が約90度違います。地図を見るとルートは国見峠からほんの少し上水晶谷を下って南へ向かいます。次に歩いたルートは尾根の東側三重県側が見渡せます。最後にスキー場手前

の施設に着いています。これら3点にひとつでも気が付けば間違いに気づくはずですが、以上、地図読みの間違ひはありますがなるべく早く気づいて元のルートに戻ることが肝心です。そうでないと全く別の所へ下山することになりかねません。以上長々と書きましたが参加されなかった皆さんもN森さんの計画書に添付された地図を見て確認いただきたいと思います。

N森講師

時間が押したこと、雨の心配があったことからイブネ方面まで行けず、佐目峠でのテント泊となりましたが、充実した2日間となりました。リーダーの役割は、パーティの安全を確保することです。そのためには、常にメンバーの歩行位置を把握しておくこと、メンバーの体調に気を配り、歩行ペースや休憩のタイミングをコントロールすること、注意箇所や分岐など先の状況をメンバーに伝え、全員が方針を共有して進めるようにすることなど、多くの仕事をこなさなければなりません。また、メンバーの方でもリーダーの判断に役立つ情報や意見を積極的に提供し、リーダーが判断を下したのちは私見を挟まずリーダーの指示に従い、協力することが必要です。

山行全般としては、どのメンバーも地形図を読んでルート全体を頭に入れ、常にコンパスで方角をモニターしながら歩くこと、渡渉箇所は増水などですぐに状況が変わるので、付近をよく観察して一番安全に渡れるポイントを見定めることは重要かと思います。安全は登山を楽しむ上での大前提です。それは計画の段階で始まっています。ソロでもパーティでも、どうすればリスクを最小化できるかを考えながら山行に臨んでいただければと思います。

S藤

鈴鹿縦走は、受講生が交代しながらリーダーになり、今どこを歩いているのか、こまめに地図を見ながら歩き、読図の勉強がみっちりできました。

またリーダーの役割なども懇々と指導して頂きました。

今回、何が良くて、何が良くなかったかをしっかり整理して、自分の課題と対策を考える良い機会にし、より安定した登山を目指していきたいと思います。

Y元R

鈴鹿縦走は、面白いルートでしたが、こまめに地図で現在地を確認し、正しい進行方向を頭に入れて歩かないと迷いやすく、一筋縄ではいかないルートだと思いました。

地図と目の前に広がる景色を照らし合わせること数回、読図の面白さと難しさを実感した2日間でした。

リーダーを務めたとき、パーティの安全確保の徹底ができておらず、自分のペースで歩いてしまい適度な距離を保てなかったことが反省です。

講師の方から沢山のご指導をいただきありがとうございました。

Y元A

鈴鹿縦走では、受講生が交代しながらリーダーを務めることになり、パーティの安全を預かるその重圧で終始緊張しました。

ルートミスをしないうにとそればかりに気を取られ、後ろや周りの景色を見る余裕がなく目の前の道にしか意識を向けられなかったことが反省です。

小雨の降るなか、鈴鹿山系の瑞々しい山と近くに迫る山々に癒やされ、理解は不十分ではありますが、地図でコースを読む難しさとともに面白さも感じることができ、ドキドキ、ワクワクの2日間でした。

リーダーの役割や身につけるべき術についてたくさんご指導頂きました。

これからも安全で楽しい登山を目指していきたいと思えます。



県連HP「初級登山教室」に他にも写真をアップしています。

2023年度 初級登山教室 御在所岳クライミング実技5 2023.10.28~29

参加者 講師スタッフ T内・N森・K口・Y田・H谷川

受講生 Y元r Y元a T本

コース 10/28 タイム: 9:30 藤内小屋発→10:30 一の壁→14:20 藤内小屋

10/29 タイム: 6:30 藤内小屋発→7:30 前尾根 P6 取り付け→13:40 P2 取り付

一口感想

T内講師

「一の壁は強風とにわか雨で敗退しましたが翌日の前尾根は天気も回復し、順調なスタートでした。P6の登攀開始から手強い箇所が連続し、P3のクラックではY田さんに助けられてどうにか通過しました。講師としての力量不足を痛感しましたが受講生の皆さんは難所を難なくクリアし、ビレイも合格点です。しし岩などで事前に練習を重ねればもう少しパーティの移動などがスムーズにできたかも知れませんが今後の課題としたいと思います。私自身は指や膝を擦ったり、足もパンパンになってほぼ限界に近くなりました。前尾根もクライミングのゲレンデですがほとんど本チャンですので気が抜けません。マルチピッチではピッチごとのロープの回収と整理をすばやく行うことが時間短縮につながります。自戒も込めて現場ではどうしたらスムーズに登れるか常に意識してクライミングを楽しんでください。」

N森講師

修了山行の御在所岳クライミングですが、初日一の壁は期待に反して雨で満身に登れず、翌日前尾根も晴れたものの上部では強風で苦勞することになりました。僕自身もビレイステーション構築中に突風に煽られて岩からハタキ落とされそうになり、ヒヤッとしましたが、そういったことも含め、受講生のみなさんには本番に近い雰囲気味わっていただけたのではないのでしょうか？そんな中、曲がりなりにも全員が1本のルートをほぼ登り切ることができたのは、大きな成果だと思います。自然は人間の都合で手加減はしてくれませんので、自身の選択の結果は全て自分で負わなければなりませんし、自分自身の身を守れなければ他のメンバーの安全も確保できません。それを念頭に、今後も色々なスタイルの登山に取り組んでいただければと思います。今回は総仕上げに近い形で、新しくお伝えすることはあまりありませんが、受講生のみなさんには、「常に先を読む」ということを心がけていただきたいと思います。特にビレイについては、実際の現場ではなかなか理想通りにいきませんが、それでも「ここでクライマーが落ちたらどうなるか、自分はどのように振られるか」を想像し、少しでもベストのポジショニング、ベストのロープ操作に近付くよう、繰り返し練習を重ねてください。

初級登山教室全体としては、大きな事故もなく無事全日程を終えることができ、本当によかったと思います。受講生に怪我をさせるわけにはいきませんので、講師としてはこの半年間は緊張のしっぱなしでしたが、ようやく肩の荷が下りました。

最初にお伝えしたように、この教室の狙いは安全技術講習です。

その点に関しては、これほど理論的で体系的なプログラムを持った初級登山教室はそう多くないと思います。これだけで十分とは言えませんが、基礎としてはどこでも通用します。今後は、学ばれた考え方をベースに、如何に山のリスクを最小化するかを常に頭に置きながら、山行を楽しんでください。

最後に、この教室は献身的なスタッフのみなさんの協力なしには成立しませんでした。
この点についても、改めて感謝の意をお伝えしておきたいと思います。
みなさん、お疲れさまでした。

スタッフ・K O

都合で初日しか参加できませんでした。しかも天候がいまいちで結局 1 本しか登れませんでした。今回の一壁は初めてでルート取りが良く分からず苦勞もしました。Y元 rさんとペアで組んでセカンドで登ってもらいましたが、恐らく無理？だと思いビレイデバイスの解除&ロアダウンの準備をしていましたが無事に登って来られました。元々のセンスも有ると思います。初級登山教室のカリキュラムが生きてるんだと感じた所でも有ります。初級登山教室はあくまでもきっかけ作りだと思いますので、これからクライミングに傾倒するもよし藪山や沢に傾倒するもよし、但し、もう一步踏み込んで更に勉強して自分の物にして下さい。出来る事なら、後に続く人に継承出来るようにお願いします。わたくし事ですが、来年は小槍～孫槍～槍ヶ岳に挑戦するつもりです。

スタッフ・Y田

クライミングを始めて 20 年来、前尾根は何度も通ったアルパインルート。
今回の登攀は寒さと停滞で本当に疲れました。
それでも、晴天の秋の日に山に浸って岩と戯れることには喜びを感じます。
このたび登山教室を卒業された方々、どうぞ安全かつ円滑なクライミングで岩登りを楽しんでください。

私の身の回りで起きたクライミングの事故を 4 例ほど……

- 懸垂下降の際にアンカーがハーケン 1 本しか取れず、それが抜けて墜落して死亡。(元所属山岳会)
- これも懸垂下降で、投げ下ろしたロープの末端を結び忘れ、下降終了近くでスッポ抜けて墜落。骨折。(私自身)
- フリークライミングでロワーダウンの際、着地するにはロープが足りないことにビレイヤーが気づかず抜けて墜落。打撲。(友人)
- クライミングゲレンデで隣のルートを登ってる人がフォールして岩棚に強打して救急隊員に担架で運ばれていった。(お隣さん)

クライミングはその性質上、どうしても事故が付きまといまいます。落ち着いて正確に慎重に再度確認をお願いします。

スタッフ・H谷川

僕は今回ラストで登りました。で、リードで登れるのか？って話ではなくラストでしか体験できない事をお伝えします。(自分自身初体験)

我々3 チームに分かれて登っていたので、その後ろのチームがずっと待っていました。トーゼンの状況です。そこでの話です。我々の次のチームはそれなりに経験値もありそうな方々で、待っている間馬鹿話で楽しく過ごされていました。おそらく我々を急かさないうちにされていたのだと思います。(性善説) そしてその後ろのチームは経験値高め男性と若い女性。その若い女性は僕に、ダブルなら何で二人で登らへんの～と。

僕「初級登山教室やっていて上で講師がセカンド（受講生の方）を上げていますが、安全を考えて念の為 1 人ずつ登ってます」お待たせしてすみません。と。

女性「ふーん。そんなん関係ないやん。2人で登ったらいいやん。何のためのダブルなん？」と。

その後「何時までに帰らなあかん、何時までにやぐらを登らないと何々に間に合わない」とか。やたらと急かしてきました 勿論すみませんの連打です。

僕は怒りもしないし焦りもしない。大事なのは冷静さ。ちゃんとわかっていますよ。

それで次のピッチで若い女性のパートナーが「ルートを変えるので先に行っても良いですか？」と。

流石に僕の前を登る山元さんは追い越さなかったはずですが、問題はその後。

僕が登る時にそのロープが絡む(汗 それを解くのに暫く闘った。(汗)

下を向き絡んだロープを解くのに下の若い女性に「ロープ出して」と言うが聞こえないのか知らん顔。

おいおい、おれがそれでおちたらどーすんねんと。

また、先の男性が万が一落ちた場合、その絡んだロープに引っ張られて僕も落ちるやん。誰が悪いとか悪く無いとかではなく、そんな状況があって当たり前の中で、いかに自分たちの安全を冷静に見極めることが大事かって事を再確認することができました。

長々とすみません それでは皆様、ご安全に！

受講生・Y元r

御在所岳の一の壁では、ハンガーボルトのない箇所もリードクライマーK さんのカムによる支点構築のお陰でスムーズに登攀することができました。

翌日の前尾根では今まで経験した岩とは違う、長くて迫力のある岩を 4 ピッチ登攀でき大満足でした。手がかりのないところでは、ほふく前進スタイルで登る等色々な方法を考えながら登り、正解はわからないけれど自分なりに楽しく挑戦できました。

リードクライマーをはじめスタッフの皆さまのお陰でクライミングの楽しさと安全管理について深く学ぶことができました。

6 ヶ月間、コミュニケーションの面では厳しい場面はありましたが、皆さまが親身になって対応してくださり感謝しています。これからはもっと積極的にコミュニケーションを取り、学んだことを色々な場で活かしたいと思います。

今までどうもありがとうございました。

受講生・Y元a

最後の講習となる御在所岳のクライミングでは、小雨や強風等、そして落ちれば命のない絶壁に自然の厳しさを感じた 2 日間でした。立ち足はだかる巨大な壁に絶望し、手がかりが見つからず、風に煽られ足が震え、でも戻ることもできず、前に進むしかないと気持ちを奮い立たせることができたのはリードクライマーが命をかけて支点を構築してくださりそしてロープを通して支えて下さったからでした。登りきった時に 1 番に思ったことは、このルートを私の拙いビレイでリードクライマーが登るのは不安だったのではということでした。パーティの安全確保には確かな技術が必要で、またロープ操作 1 つで登りやすさだったり安心感が変わるということを実感した講習でした。

そして絶大な信頼関係が何よりも大事だと思いました。

この講習を通して自然の厳しさと様々な山の楽しみ方を学ぶことができました。半年間、随所で色々な配慮をしてくださりそしてたくさんの学びの場を提供してくださりどうもありがとうございました。この学びを色々な場で返していけたらと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

受講生・T本

初級登山教室最後の実技、御在所岳アルパインクライミング。のっぺりとした岩場で中々難しい岩場でした。講師、スタッフの方には初めてだったり久しぶりだったりした方もおられた様で、とても大変だったのではと想像します。そんな中で私達受講生を連れていって下さり感謝の気持ちで一杯です。安全に確保する大切さを十二分に教わりました。アルパインは基本落ちてはいけないと教わって来ました。又ンチャクのスリングを挿む Aゼ口、ボルトに足を乗せる、最終手段があることを知って落ちないで安全に登る技術も必要かと感じました。今まで教わってきた事、今回教わった事を元にこれからも精進したいと思います。半年間ありがとうございました。



県連HPに「初級登山教室」に他にも写真をアップしています。

第24回 比良山系の飲み水水質調査山行 ①コース（大橋方面）

〈日時〉 2023年11月3日（金・祝） 天気：晴れ時々曇り

〈コース〉 和邇川河川敷＝坊村～牛コバ～大橋（採水）～南比良峠～鳥谷山＝摺鉢山～牛コバ～
白滝谷登山口（採水）～坊村＝権現山栗原登山口（採水）＝和邇川河川敷 解散

〈参加者〉 CL：NT SL：KT KE（記録） OK（体験） 当会会員3 体験1 計4名

残念ながら、当コースには他会からの参加はなかったが体験参加1名（KTさん知人）あり。

②コースが人員不足のため、1名回ってもらい、最終的に4名となった。

7:00 和邇川河川敷に両コース共集合、和邇駅で1名ピックアップし、両コースに分かれ出発。

8:00 坊村葛川市民センター前の駐車場は3連休初日とあって満車。何とか端の方のスペースを見つけ駐車。その後も、車が次々と入って来て、私達はラッキーだったかもと歩き出す。

今日は最高の登山日和だ。紅葉はちらほらと見られ、晴れた空の下で紅黄葉が輝いている。

9:05 牛コバ。次第に汗が出てくる。ロープを渡してあるトラバース道をおそるおそる進む。中々スリリングなんですよ。

10:35 深谷の恐怖の渡渉。去年は誤って川の中に滑ってしまい、お尻を強打した。今年は水量もそれほど多くなく無事に渡ることが出来た。よろよろ渡る私を尻目に、体験のOさんは軽々と渡っていった。小川新道分岐に近づくと、立派なアシウスギがあちらにも、こちらにも！

11:00 大橋のスリバチの水。やっと一番目の採水場に。早速汲もうと思ったら、肝心の水は少なく、採水に手間取った。気温は17.5° 水温10° 11月にしては気温が高い。

南比良峠を目指す。ここからの景色は去年も見たが最高！人がいなくて真っ青な空の色、黄色く染まる木々を通り抜け、気持ちの良い道を通る。“このままずっとと歩き続けたい”、そんな道。

12:10 南比良峠到着し昼食にする。②コースはまだ着かない。少し待ったが、先が長いので、出発する。13:05 荒川峠 13:45 鳥谷山 残念ながら琵琶湖は霞んで見えない。対岸に見えるはずの山々も全く見えない。14:10 摺鉢山 暫く歩いていると、風邪気味のCLがすたすた歩いているなどと思ったら、枯れ木のうろに立派ななめこが！久しぶりにこんな艶のある立派ななめこを見た。15:00 大橋への道に合流 15:35 牛コバに下りる。



白滝谷登山口の水



南比良峠に向かう“このままずっとと歩き続けたい”道

15:40 2番目の採水場、「白滝谷登山口の水」。やはり水が少なくここも採水に苦労する。16:45 坊村に下山。次は最後の採水場 権現山栗原登山口だ。時間が無い為急いで車を走らす。

17:20 権現山栗原登山口の水。気温 16° 水温 14.5°。もうすっかり日が暮れて真っ暗なので車のライトを照らして採水する。

長い1日でしたが黄紅葉も楽しめ、採水も無事終わることが出来、良かったです。

尚、採水済容器は6ヶ所分まとめて、CLが検査会社へ託送のため運送会社へ持ち込んで完了。

記録 KE

〈交流山行〉雪稜会

比良・荒川峠方面(採水3か所、放射線測定11カ所)

実施日 2023年11月3日 晴れ

コース 採水3か所・放射線測定11カ所のタイム記録です。

7:51イン谷→8:36大山口→9:34カモシカ台→10:43北比良峠→11:08八雲が原水場→

12:06金糞峠→12:57南比良峠→13:49荒川峠→14:57荒川峠湧水→15:34中谷出合→イン
谷口(車回収)→16:37金毘羅道湧水→終了

(リーダーは、事務所へ採水を届ける)

参加者 雪稜会 K・H Y・N 山友会 M・M(報告)

感想 2年前にも大橋方面の飲み水水質調査に参加したことがある。今回は、荒川峠方面のコースに参加した。「比良の紅葉」を楽しむのが目的でした。十分に楽しむことができ、大満足でした。比良は近くていろいろなコースがあり、歩いたことがないところも多々あります。コースが逆になるだけでも初めてという感覚になる。南比良峠の縦走路は特に歩きやすく紅葉が楽しめるコースだと思う。雪稜会のKさんの手際のよい、採水、放射線測定の指示等には、感心するばかりでした。



交流山行

登山道の放射線量測定山行報告書

参加者：田中 武範（山友会 県連理事） 宮内 眞子（山友会 県連理事長） 山田比朗子（山友会）

日時：2023年11月15日（水）9時～15時30分

測定地：高島市マキノ マキノスキー場～赤坂山～粟柄峠～寒風

登山道の放射線量測定は、滋賀県では、県連では毎年数カ所で測定していたが、昨年からは赤坂山のみ、他に比良雪稜会が比良山系で行っている。

県連の測定地点は例年と同じ所である。別添測定票のとおり、測定地点毎に昨年とあまり変化がない結果であった。

測定地点では一分おきに計5回測定する。測定数値単位は、 $\mu\text{Sv/h}$ 。測定8地点で一番高い数値を示した所で $0.17862\mu\text{Sv/h}$ これを一年間にすると $0.17862 \times 24 \times 365 = 1564\mu\text{Sv/h} = 1.564\text{mSv/年}$ である。

“放射線医学総合研究所ホームページ”では自然放射線の日本平均は 1.5mSv/年 でありピットリカンカン。因みに（一回の被爆で） 500mSv でリンパ球減少、 250mSv で白血球減少とあり、これは人為的な放射能事故である。

山行は、朝方は寒かったが、歩いているうちに暑くなり汗をかきだす。マキノスキー場上部の測定地は、標高196m、赤坂山823m、寒風853mである。当初は緩い坂、それほど急登はない。赤坂山から寒風までの高島トレールの尾根道は結構アップダウンもある。赤坂山頂に着いてしばらくすると、60才代70才代と思われる登山者が30名以上登ってくる。聞くと浜松からマキノまで貸し切りバスで4時間かけて来たという。三国岳にも登って約4時間登山するとのこと。ほとんど私より高齢にみえたが、汗だくになりながら、元気そうであった。浜松の山の会、おそるべし！

また、山並みが続く福井県美浜町の尾根筋には風況観測塔が2本ほど立っているのが見られる。美浜新庄風力発電所建設予定地であろう。また寒風手前の尾根からは美浜の海が見える。山で見えないが右側に今も稼働中の関西電力美浜原子力発電所があり関西に送電されている。美浜からと思われる送電線と鉄塔も北の方に伸びている。

寒風からはだらだらと約1時間半かけて下山するがスキー場近くまで降りてきたとき、野生の猿同士喧嘩していた。喧嘩声は凶暴な感じである。ボス猿は貫禄十分。午後からは晴天になり気分良く山行と測定できた日であった。

理事 田中 武範



県連主催

ハイキングレスキュー講習会 報告

実施日 2023年11月12日（日） 開始 午前9時～午後3時30分 終了

集合場所 皇子が丘公園 湖西道路直下の駐車場 会場は、駐車場の東屋付近と千石岩の斜面を利用

受講者 山友会8名 雪稜会5名 岳友会2名

スタッフ OT 2名 山友会7名 雪稜会2名 岳友会1名

ゲスト 京都労山 元救助隊・隊長 青山氏

報告 全体リーダーよりカラビナ・スリングの特性や簡単な扱い方、注意点の説明。その後3班に別れてロープワークの練習をしたのち、千石岩下部の斜面に移動して、フィックスロープによる登下降・ムンターヒッチ確保・カラビナスルー・ネット搬送の実習。

皆さんからの一口感想

Nさん（山友会）

以前セルフレスキュー講習を受け、2回目でしたが非常によい復習となりました。時間をかけて大変丁寧に指導していただき、定期的に受講することで技術がより確実なものになると思いました。ありがとうございました。



Mさん（山友会）

いつも山へ入るときは、すべて自己責任、と思っています。それでも色々なハプニングが起きる場所が山です。助けてもらうこともあるかもしれないけれど、助けられる場面があれば、助けたいと思います。

（ミーハーですが某漫画の主人公みたいに。）それには技術や知識が必要で、講習会では一人では中々出来ない、担架の作り方や、そもそも自分の身を確保して実際の山を登る経験をさせていただきました。山行を重ねると、ライトな装備で行きたい…とつい思いますがとっさの時に必要なものまで削いでしまわないよう、このような機会に定期的に自分自身に言い聞かせたいです。スタッフの方々へ…貴重な勉強の場をありがとうございました！

Sさん（山友会）

エイトノット、クローブヒッチ、ムンターヒッチ、簡易ハーネス・・・どれも昨年初級登山教室で練習してきた基礎であったが、手順を思い出してスムーズにできるまで時間を要した。今日一番印象深かったのは、ネットとストックで担架を作り負傷者を運ぶ体験。重量級の方でも、レスキューポイントまでならなんとか搬送できる気がした。登山中実際のピンチの場面で使えるには、反復して練習するほかないことを痛感した。繰り返して丁寧に指導いただき、ありがとうございました。



Nさん（岳友会）

講習はとてもわかりやすく楽しかったです。最後の園芸ネットの担架には驚きました。良い体験ができました。また参加させて頂きたく思います。

Tさん (岳友会)

簡易ハーネスの作り方やカラビナスルーの方法や細引きの使い方、ネットを使った搬出などを、斜面で実践練習をしてくださったのでとても分かりやすかったです。次回もぜひ受講したいです。

Kさん (岳友会)

簡単なハイキングでも、また注意していても、山での事故は起こる可能性があるという意識を持つことが重要だと思います。また、その時にどんなことができるのか、考えておくことも必要だと思います。



Kさん (雪稜会)

今までは、緊急時の知識のために講習を受けていましたが、今回、初めてスタッフとして参加しました。

お陰さまで、理解度が教わっていた時より増したと思います。ありがとうございました。

Tさん (OT)

ハイキングには通常、ロープやスリング、カラビナなどは不要な場合が多いですが、登山道ではざれて滑りやすい箇所や崩落場所の通過など整備がされていないルートもあります。また、パーティーの誰かがつまずいたりふらっとして滑落したりする可能性があります。あつてはならないことですが、もし事故が発生した場合、パーティーでできることは限られています。少なくともリーダーは必要最低限の補助ロープ、スリング、カラビナなどを携帯(歩くルートにもよります)する必要があります。また、用具が使えないとアクシデントが起きても措置ができないということになりかねません。これはリーダーだけでなくパーティーの一人一人が安全な登り下り、結び方の基本について理解し、常に練習しておく必要があります。私自身大きなことは言えませんが参加の皆さんには何かアクシデントが起きた場合、どのような対処ができるのか日頃の山行でも意識して想定し、予行練習することも大切だと思います。

Nさん (OT)

今回は、ハイキングで使える汎用的なレスキュー技術として、フィックスロープによる登下降、ムンターヒッチによる確保、カラビナスルー、ネット搬送を行いました。

十分に時間を取って練習できるよう、メニューを絞って実施したつもりでしたが、必ずしも行き届かなかった面がありました。しかし全く初めての方がどこで戸惑われていたかを知ることができたので、是非次回に生かしたいと思います。戸惑いを減らすという意味では、事前にもっとスタッフ作業の標準化を進める必要があるようにも思いました。個人的な観点で言えば、たとえばフィックスロープの手がかりにするループはインライン・エイトが最適だと思いますし、末端の固定はダブルポーリン+オーバーハンドで行うのが望ましいと思いますが、この辺りはスタッフによっては新たに憶えるべきが増えるので、まだまだ検討が必要です。

また、フィックスロープ10m単体では短過ぎて連結したので、数が不足し、結果的に待ち時間が多くなってしまったのも反省点です。このようなレスキュー技術は、パーティ全員が十分に理解して、必



要な時にすぐに利用できなければ意味がありません。一方、技術的習熟を要する要素は、それ自体がリスク要因になるので極力避けるべきだと思います。そういった面では、今回の講習内容は、最大公約数的な構成になっていたと言えるかもしれません。

しかし、補助ロープによるフィックスロープでは負傷者の引き上げはまずできませんし、ネット搬送ではスリングによる補強方法を取り入れ、改善を図りましたが、それでも1人の負傷者を運ぶのに最低4人は必要になります。カラビナスルーにしても、姿勢を崩しそうになった時の保険以上の期待は禁物です。これらを見てもわかるように、現場でできるレスキューには非常に限りがあります。

そのことを念頭に、まずは計画段階から極力リスクを取り除くことを心がけ、十分な体力と歩行技術を身に着けた上で、ハイキングレスキューにも繰り返し取り組んでいただければ、より「安全な登山」に近づくのではないかと思います。



京都労山 元救助隊長 青山氏



2023年度 第1回 代表者会議 第9回 理事会 議事録

第1回 代表者会議

日時 2023年11月8日(水) PM6:00~8:20

□出席 山友会・長谷川 雪稜会・西村 岳友会・北村 オフトレイル・信森
ちごゆり・濱本 シャクナゲ・太田
県連理事 友永・田中武・田中政・川口・藤野・田中利・川嶋・菅・山元・宮内

議題

1. 今年度の 清掃登山・登山祭典 についての反省点と来年に向けての課題・要望等

●清掃登山について

信森) オフトレイルは、竜王町からの補助金の関係で、「雪野山」を竜王町側からのピストンコースで清掃登山を行っているが、登山客も少なく、ゴミも少ないのが現状。来年は、コース変更を考えているが、これは会で判断すればよいか？

北村) 一般参加者の保険について、岳友会は、「労山の短期掛け捨プラン@250」を申請する必要は、ないと思っている。リーダーが労山事故保険に加入していれば、条件さえそろっていれば、保険はおりと思う。

西村) 保険の対応については、調べて周知してほしい。

宮内) 全国連盟にも問い合わせ、確認して報告する。

太田) 今回の清掃登山のコースは、あまり歩かれていないコースを選んだが、スマホのGPS機能で、若者が登っていて、せわしなかった。ゆっくり地図読みができなかった。地図読みをしながら登る楽しみは、無くなっていくのだろうか。

友永) スマホ登山は、増えている。最低限の読図は必要である。

信森) スマホの画面に表示されるのは地図である。地図はルートだけでなく地形や植生などの情報が記載されており、いずれにしても読図力は必要。

濱本) 登山祭典の「祭典」の意味が薄れているように思う、10月に登山祭典としてする必要があるのかと思う。

友永) 一年ごとに合同ハイキングを実施していたこともあるが、何年か前に八雲が原に集中したこともある。各会から合同・集中の要望があれば、集中する登山祭典としてもよいと思う。

信森) 複数の山行に参加したいという声があったので、実施日程を分散できないか？

西村) 登山祭典を2回に分けて実施してもよいのではないか。

友永) 登山祭典は、新日本スポーツ連盟が始めた、月間行事としているので1回だけでなくてもよい。

濱本) 清掃登山についても、ちごゆりは、毎年比良・正面谷で実施しているが、登山者のごみは、ほとんどない、不法投棄が目につく。

友永) 登山者のごみ以外は、写真に撮って、自治体に撤去してもらえるように報告している。

友永) コロナ後、山のごみは、増えている傾向がある。

信森) 山の環境を守るという理念的な意味でも、活動の対外アピールという点でも意義はあるので

は。

西村) 雪稜会は、比良南部を担当している、琵琶湖から3コース、坊村2コースの計5コースを年2コース順繰りでまわしている。びわ湖バレイと江若バスに協力してもらっている。

このコースも登山客のごみは、ほとんどないが、山の自然を守るという意識で継続していきたい。

友永) 奈良県連は、クリーンハイクをグリーンハイクと名前を変えて、自然環境を考える機会として実施している。

宮内) 交流山行についてはどうですか、他会からの参加が少ないので、交流山行の必要を問われるかもしれないが、機関紙の裏面の行事予定表に掲載されている山行は、会員が参加したいと思う山行は、各会に問い合わせてくださいという意味もあって掲載しています。機関紙に交流山行として案内を出してもらう方がコースもわかり、会員は参加しやすいと思うので、各会に企画をお願いしています。

西村) 交流山行としては、会の例会を提供している。

北村) 交流という意味では、個人山行も機関紙に案内してはどうかと思う。

宮内) 以前は、「ステップアップ比良」を年間計画で掲載したこともあったが、個人山行としてではなく、交流山行として、機関誌に掲載するようにした。

西村) 個人山行を機関紙に掲載するかは、理事会で検討して結論を出してほしい。

宮内) 次年度の活動計画案に講習会開催を考えている。

1.薬師沢小屋のやまとけいこさんの講演会 企画提案作成・藤野理事

2.山筋ゴーゴー体操講習会(全国連盟推奨) 企画提案作成・担当宮内

信森) 次年度の県連活動計画に「ファストエイドの講習会」を提案する。

ハイキングレスキュー講習会と併せて実施してほしい。

宮内) 検討します。

第9回 理事会 午後8時20分～8時50分

議題

1 第61回登山祭典(10/22日曜日 実施済)

1. 報告 県連ニュース12月号掲載

山友会 一般1名 会員10名

雪稜会 一般16名 会員23+1名

岳友会 一般15名 会員15名

OT 一般4名 会員5名

ちごゆり 一般11名 会員14+1名

シャクナゲ 一般0名 会員2名

2. 初級登山教室

・10/14-15 クライミング実技5 御在所で終了 受講生3名・スタッフ5名

3. 初級読図コース ・4回目 最終11/26「穴太・壺笠山」予定 今年度終了

4. 各部からの報告

機関紙部・・・県連ニュー12月号(11/15〆切)

○リレーエッセイ・写真 (雪稜会)

○報告 初級登山教室 10/14-15 クライミング実技5 山行報告予定

初級読図コース 3回目 9/30 報告予定

○交流山行 11/3 放射線量測定・水質検査山行報告予定(比良雪稜会)

○交流山行 11/11 赤坂山 放射線量測定山行報告予定(自然保護部・田中武)

○ハイキングレスキュー11/12 報告予定

○ 来年2月10日～12日「イグルー講習会」案内第2弾

自然保護部・・・10/20 急遽変更のため欠席 近畿ブロック自然保護委員会リモート会議報告

組織部・・・

合計人数 比較 ↓	山友会		岳友会		雪稜会		ちごゆり		オフトレイル		シャクナゲ		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
	35	41	18	10	22	18	7	14	6	3	3	2	91	88
10月/9月	76	75	28	28	40	39	21	21	9	9	5	5	179	177
	/	1	/	0	/	1	/	0	/	0	/	0	/	2

財政部・・・11/8 代表者会議(対面)現金精算予定

教育遭対部・・・

・11/12「ハイキングレスキュー講習会」実施決定 場所 千石岩 直下の斜面

スタッフの事前練習日 10/21 土曜 実施予定 スタッフに事前資料送信

11/12 スタッフ OT;信森・谷内 山友会;友永・川口・長谷川・金原・山岡・谷本・宮内

岳友会:北村 雪稜会:近藤・中村

各会の参加予定(10/30 現在)

・山友会 8名 ・雪稜会 7名 ・岳友会 2名

5. その他報告・検討事項

○2024年3月3日 県連第48回定期総会 午後13時～ 大津ふれあいプラザ

午前中 講習会を企画 会場予約 10/7 済み 午前9時～17時

。

6. 今後の全国連盟の予定等の連絡事項

第35回全国連盟総会(2024年2月17日～18日 東京) 友永出席予定

メモ

- 2024 年度原水爆禁止・国民平和大行進(67 回目)の県連担当を決める
- 近江湖南アルプス自然休養林運営協議会山元事務局長から、登山道整備等協力依頼
現在作業は、清掃登山の関係で、山友会・金原・長谷川・宮内で対応。
- 来年度「伊吹山」清掃登山について、米原市と連絡をとる

次回12月は、休会です。

来年 2024年1月11日と1月24日 ZOOM理事会 午後 8 時～9時 開催予定

理事会の今後の予定

12月初めに メールで2024年度議案書作成を依頼します。すべての理事に送信します。

12月20日をめどに宮内まで提出 年内に議案書案をまとめて理事に返信します。

2024年

1月11日と1月24日 2回 ZOOM理事会を開き、議案書について検討します。

2月14日 第2回代表者会議 明日都浜大津 大会議室 午後6時～開催

3月3日 第48回定期総会 開催 午後1時30分～

午前中 例年通り 講習会を予定

ぐうたら会長のつぶやき

「道のありがたみの判る人間は、道のない所を歩いたことのある人間だけだ」と何かで読んだことがあります。5 時間も 6 時間も藪漕ぎをした後に道に出るとホッとします。それが登山道でなく、人が歩いたことのわかるひそやかな踏み跡であってもです。この道をたどれば人の住む場所にでれるというだけで安心します。人の世界を逃れて山を歩いているというのに不思議ですネ。今の私には 5 時間も 6 時間も藪漕ぎをする体力も気力もありません。それでも最近やっている低山歩きで、ほとんど人の登っていない山を登ると 2 時間くらいで短いですが、藪漕ぎをすることがあります。そんな時は自分の体力の低下を思い知らされます。人生の下り坂にかかってしまったのかとガッカリします。

小椋佳さんの歌だったか「もうと思えば下り坂、まだと思えば上り坂」というのがあります。若いころはいつでも「まだ」あれもやりたい、これもできるはずだ、という上り坂の人生だったと思うのですが、いつのころからか「もう」と思うことが多くなって「もう」これはできないとか「もう」これをするのは苦しいとか思う下り坂の人生になった気がします。でも若いころのような絶対的に厳しい山登りはできませんが、相対的に厳しい山登りはできる気がします。体にかかる負担が今の自分にとって若いころと同じような負担だったら、若いころと同じような山登りだと言えないこともないと思います。少し詭弁だとは思いますが。

低山歩きをしていると時に思いもよらぬ厳しい山に出合うこともあります。そんな時は、昔と同じような厳しさを感じます。地面に落ちる汗の数を数えながら歩いたことを思い出したりします。背中の中のザックの重さも体に堪えるように感じます。若いころの 30 kg と今の私の 10 kg は同じ負担に感じてしまいます。それでも山を歩ける幸せだけは感じます。「もう」ではなく「まだ」と思いながら日々を過ごしたいものです。皆さんは「もう」ですか「まだ」ですか？

以前にも書いたかも知れませんが、人間の価値は持っている可能性の大きさだと私は思っています。その意味では生まれたばかりの赤ちゃんが最も価値のある人間だと思います。彼ら、彼女らには無限の可能性があるのでから……。人生というのは、その可能性を一日一日とすりつぶしながら生きていとも言えます。後期高齢者になって、ありがたい負担 1 割の健康保健証をいただいてしまい、持っている可能性が少なくなってしまったことを思い知らされたのですが、ガッカリする必要はないと思います。人間には息を引き取る瞬間まで、どんなに少なくなっても可能性は残されているのですから……。

※言い訳です。この二、三日少し体調が悪くて、ビールを飲むこと以外は頭がまわらなくなり、支離滅裂な文になってしまい、何を書こうとしたのかわからなくなっていました。

行事予定

			1	赤坂山	OT
			2-3	ダイヤモンドトレール	岳友
			2	新人歓迎山行「比良・正面谷」	山友
			2	ほしだ園地	雪稜
			3	八王子山～三石岳	雪稜
			5	賤ヶ岳	ちご
			9	土山宿～関宿	雪稜
12			9-10	忘年会(鬼が岳)	OT
			16	忘年山行(水井山～横高山) 忘年会	雪稜
			16	忘年会	雪稜
			16	綿向山	岳友
			17	総会・忘年会	ちご
			17	ハイキング部例会	山友
			28-31	妙高スキー	OT
			日未定	山本山(オオワシ見物)	ちご
	10	ZOOM理事会			
			6-7	樽池高原スキー	OT
1			7	比叡山	岳友
			14	堂満岳～八雲が原	岳友
	24	ZOOM理事会	日未定	箱館山	ちご
			28	須磨アルプス	雪稜
			20-21	氷ノ山	岳友
			21	ハイキング部例会	山友
			28-2/2	大雪山・十勝岳スキー	OT
			4	霊仙山	岳友
			7	西南稜(坊村から)	
	10-12	CSS企画「イグルー講習会」			
2	14	代表者会議・理事会(明日都浜大津)			
			23-24	大菩薩嶺	岳友
			25	今津 ザゼンソウ	ちご

[会名略号] 山友:滋賀山友会、岳友:湖南岳友会、雪稜:比良雪稜会、ちご:ちごゆり山歩会
 シャク:シャクナゲ溯行クラブ、OT:山の会オフトレイル
 スキーネット;山スキーネット滋賀、CSS:クライミング研究会滋賀 初級:初級登山教室



2024年1月号の原稿は、12月15日〆切です。

1月号のリレーエッセイは友永会長、写真は理事の担当となります。

原稿の投稿先 宮内 m-miyauchi@ares.eonet.ne.jp

藤野 kawahaakebono@gmail.com

菅 nokomama.2016@gmail.com

用紙サイズは A4、フォントは本文 11~12、タイトル 14~16、余白は上下左右 19mm とし、使用する写真は 200KB 以内としてください。

『県連ニュース2023年12月 NO.557号』

発行日：2023年11月20日

滋賀県勤労者山岳連盟

〒520-0047

大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1F
大津市市民活動センタースモールオフィス内
メールボックス NO13

ゆうちょ銀行(店名418)

普通 0239956

<https://www.shigarosan.com/>

Email shigarosan@gmail.com

発行責任者 宮内 眞子

編集委員 菅 泉 藤野 健太郎